

Broaden your horizons 63 ~さあ、視野を広げて!~



こんにちは。メディセレのしゃっちょう、児島恵美子です。
先日、メディセレ東京校で「第8回次世代の薬剤師を創る会」を開催いたしました。一般口頭発表1番目は、在宅専門薬剤師から、在宅でのリアルな活動についてご発表いただきました。時間が来ればしっかり帰られるヘルパーさんとの連携に関するご苦労、鍵を勝手に開けて財布から薬代をいただいて帰るご苦労、患者さんの死に向き合うご苦労などを、赤裸々に語っていただきました。

2番目の演者は、4月に薬局を開局したときに学んだ、これまたリアルな発表でした。「ぶっちゃけ、初期費用はいくらかかりましたか?」というお金の話から、開業支援をコンサルタント会社から受けるべきかどうか、医薬品卸から受けるべきかどうか、他の薬局開設者を頼るかどうかのメリット・デメリットなど、なかなか聞きにくい薬局の裏事情がリアルにあぶり出されました。

3番目の演者は、プレアボイド症例から薬剤の変更・中止を提案できる指標として重要な検査値についてご発表いただきました。東濃中央クリニック院長、大林浩幸先生にも、検査値を判読するドクターの視点に触れていただき、とても盛り上がりました。

その後「講演1」として、患者吸入指導のコツと吸入デバイス操作法のピットホールを大林先生にご講演いただきました。「難治性の呼吸器疾患とは何ですか?」という問いに、大林先生は「デバイスを適切に使用しないことです」ときっぱりお答えにられました。殺虫剤は誰もが間違えないで使えるのに、吸入器はどうして使い方を間違えてしまうのだろう? このピットホール(落とし穴)を的確な答えで埋めてくださいました。

「講演2」は、簡易懸濁法を確立された、昭和大学准教授の倉田なおみ先生が、薬剤師の「ソコチカラ」について、ご講演くださいました。患者さんを親や恋人と思いつ薬指導をしているか、今一度みんなで考えました。「私たちは命を延ばすことができるほどすごい力を持っていない。だけど、よりよく生きられるお手伝いはできる」——倉田先生の深いお言葉です。薬剤師にできることをもっと皆さんと考えていきたいと思いました。

Medisere(メディセレ) 代表取締役社長 児島 恵美子